

発掘調査現地説明会が開催されました

江戸時代初期の築城技術の一つ。敵の侵入を防ぐ「障子堀」



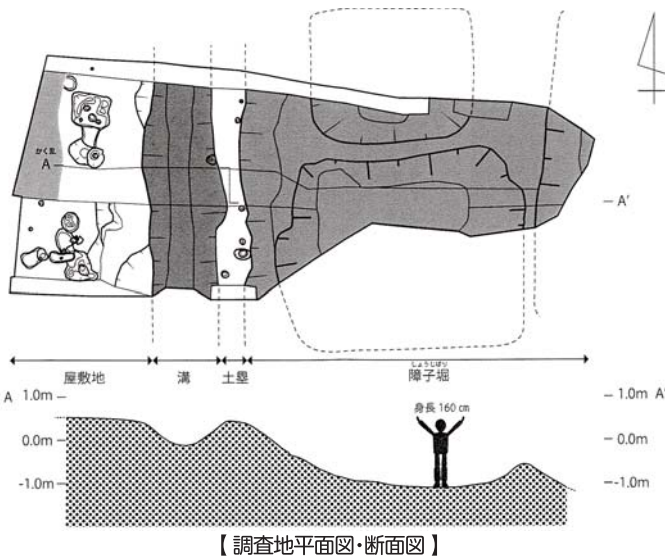
大手前通りみちだより



発行所

松江県土整備事務所
tel0852 (32) 5755

松江市役所歴史まちづくり部
都市政策課
tel0852 (55) 5373



東側から見た発掘現場。屋敷地と障子堀の高さはおよそ1.6m。障子堀は、堀を渡ってくる敵の侵入を防ぐ築城技術。

城山北公園線2工区の道路拡幅工事にともない、松江市により行われていた市道北田大橋線交差点(南田町)付近の文化財の発掘調査について、10月18日(土)に、現地説明会が開催されました。

今回の発掘現場は、「堀尾期松江城下町絵図」から堀尾家の家臣である畑十太夫の屋敷地であったことがわかっており、屋敷地の東側には土塁と障子堀が発掘されました。

「障子堀」は、堀の底に畔状の土手を掘り残し、深い場所と浅い場所をつくることにより、堀を渡ってくる敵の侵入を防ぐ築城技術の一つです。



漆塗りの茶碗やすり鉢など、多くの生活用品も出土しました。

戦国期に関東に勢力を持っていた後北条氏が始めたと言われている、東日本で多く発見されています。西日本では、大阪府大阪城三の丸跡、北九州市小倉城外堀跡などのほか県内では雲南市三刀屋町の山城跡など数例のみしか知られていません。今回の発見は、江戸時代のものとしては、中四国で初めてとなっています。

また、堀尾期の城下町絵図からは鉤型路を設けるなど実戦を想定した軍事的な設計がされていることは知られていましたが、今回の発見は、絵図だけではわからない貴重な発見でもありました。松江城下町が造られた1607〜1611年頃は、関ヶ原の合戦の後であっても大阪に豊臣家が存在する当時の緊迫した情勢であったことが伺えます。

現場説明会には、秋空のもと約130名の参加者が集まり、調査員の説明に真剣に耳を傾けていました。

“大手前通りみちだより” はみちづくりに関する最新の情報をお届けします！

2工区の信号機・横断歩道の配置を再検討しました

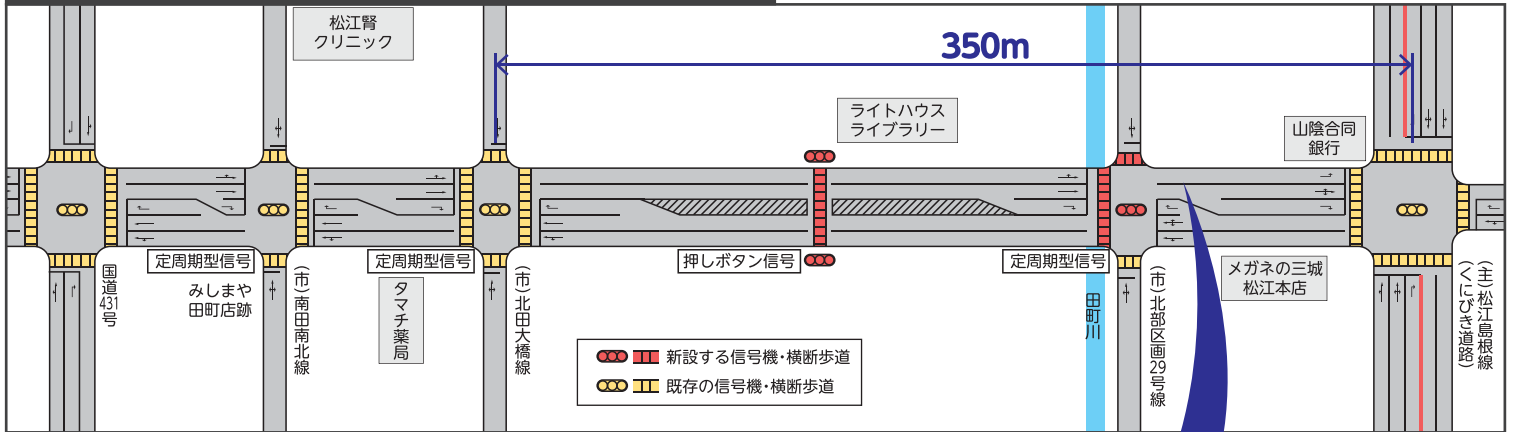
城山北公園線の2工区は、市道南田南北線からくにびき道路交差点まで4つの交差点があります。沿道の交差点のうち、信号機が設置されている交差点の間隔は概ね100～150m前後ですが、市道北田大橋線から(主)松江島根線(くにびき道路)までは、信号機の設置されている交差点間の距離が約350mと最も長く、平成14年度の当初計画(都市計画決定時)では、歩行者の利便性を考慮し、ライトハウス・ライブラリー付近及び昭和橋西詰め付近にそれぞれ信号機・横断歩道を設置する予定としていました。

当初計画から10数年経ち、改めて信号設置箇所について沿道の方々や警察本部との協議を行う中で、県内でも有数の主要幹線である「くにびき道路」に隣接する区域である等周辺の道路環境から、円滑な交通を阻害する可能性があること、沿道利用から信号機が支障となるとの意見があることから、再度、地元の皆様にご意見をお伺いした結果、ライトハウスライブラリー付近の信号機を設置しないこととし、また昭和橋西詰め信号機を「押しボタン式」とすることとなりました。

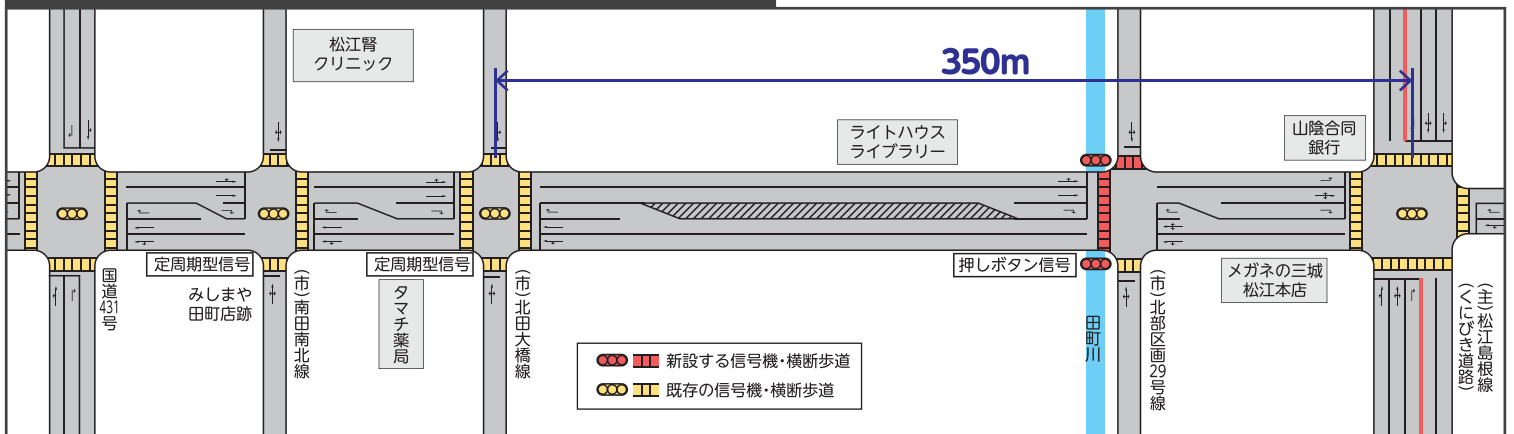
新しい信号機配置により、昭和橋西詰め歩行者が必要に応じて横断を確保できるようにになるとともに、市道北田大橋線からくにびき道路までの350m間は、信号が少ない分、スムーズな交通処理が期待できます。

今後も皆様が安心安全に利用できるように、整備効果の高い道路となるよう、事業を進めてまいりますので、ご理解とご協力を頂きますようお願いいたします。

2工区の信号機・横断歩道配置図 (当初の計画)



2工区の信号機・横断歩道配置図 (現在の計画案)



今回提示した計画案の詳細は、「大手前通り(都市計画街路 城山北公園線)」のホームページに掲載しています。

http://www.pref.shimane.lg.jp/infra/road/kikan/matsue_kendo/ootemae/

街路の計画に関するお問い合わせ、ご意見は、松江県土整備事務所 都市整備課 (担当:森脇・神田)まで

● 用地・補償に関するお問い合わせ
松江県土整備事務所 用地スタッフ
TEL 0852(32)5762

● 設計・工事に関するお問い合わせ
松江県土整備事務所 都市整備課
TEL 0852(32)5755

● まちづくりに関するお問い合わせ
松江市役所 歴史まちづくり部 都市政策課
TEL 0852(55)5373